

各プロジェクト一覧表

海域

No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況							プロジェクトの目標	担当部局	
			第1期期末評価時点 (集計年度)	第1期期末評価時点以降～平成26年3月末時点			平成26年4月～平成27年3月末時点					平成27年度の実施予定
				場所	実施状況	備考	場所	実施状況	備考			
1	深掘跡の埋め戻し	浚渫土砂等を有効活用し、青潮の発生要因のひとつとされている深掘跡の埋め戻しを行う。	千葉港及び湾奥部に存在する深掘跡の埋め戻しを実施 埋め戻し量約1,500万m ³ (平成15年度～平成23年度)	千葉港及び湾奥部	千葉港及び湾奥部に存在する深掘跡の埋め戻しを実施した。 約400万m ³ (平成24年度～平成25年度)		千葉港及び湾奥部	千葉港及び湾奥部に存在する深掘跡の埋め戻しを実施した。 約100万m ³ (平成26年度)		達成量	千葉県	
2	干潟・浅場等の保全・再生・創出	水質改善や生物多様性の確保に資する干潟・浅場等の保全・再生・創出を行う。	東京湾内の3カ所において、至8.5haの浅場・緑地・磯浜・藻場を再生・創造するとともに、モニタリングにより効果を検証 (平成18年度～平成24年度)	東京港中央防波堤沖	平成18～23年度に造成した磯浜(3.0ha)のモニタリングを実施した。(平成25年度)		東京港中央防波堤沖	平成18～平成23年度に造成した磯浜(3.0ha)のモニタリングを実施した。	モニタリング期間終了	再生・創出された干潟の造成面積:10ha以上	東京都	
							東京港野鳥公園	平成28年度以降の干潟拡張工事に向け、調査を実施した。	干潟拡張面積:11.8ha	平成28年度以降の干潟拡張工事に向け、実施設計を実施する。		
3	覆砂	浚渫土砂等を有効活用し、底質の改善を目的とした覆砂を行う。	東京湾奥部(浦安沖)において浚渫土砂を活用した覆砂を実施、覆砂後モニタリングを実施 覆砂約450,000m ³ 、覆砂面積約45ha (平成17・18年度)、モニタリング(平成19～23年度)							覆砂された面積:50ha以上	共通	
4	生物共生型港湾構造物の整備・改修	生物と共生する港湾構造物の整備を行う。	東京湾内の4カ所において、生物付着を促進する港湾構造物等を整備するとともに、モニタリングにより効果を検証 全整備延長2,215m、再生された干潟・藻場等の面積13.9ha エアレーションの導入等に関して高濃度酸素水発生装置による実海域実験を1カ所で行った。 (平成15年度～平成24年度)	横浜港京浜地区	生物共生型護岸の最上及び中段部に、造成砂(50m ³)の投入を実施した。(平成25年度)		横浜港京浜地区	生物共生型護岸の中段部に、人工石材の投入を実施した。		継続して生物共生型施設で各種実証実験を実施する。	生物共生型港湾構造物の整備数:5カ所	関東地方整備局港湾空港部
5	浚渫土砂等の高度利用の推進	浚渫土砂や建設副産物(スラグ等)の高度利用に向けた施策を推進する。	横浜港金沢地区で、浚渫土砂と一部潜堤にスラグを混合した人工石を活用した浅場・藻場造成を実施するとともに、モニタリングにより効果を検証 浅場造成 0.8ha(平成21年度)、モニタリング実施(平成22～24年度)	富津市富津地区	東京外かく環状道路の千葉県区間より発生する土砂を使用し、富津沖に存在する窪地の埋戻しを試験的に実施した。 また、工事実施中の水質調査や、底質・底生生物調査等の環境調査を実施した。(平成25年度)		富津市富津地区	東京外かく環状道路の千葉県区間より発生する土砂を使用し、富津沖に存在する窪地の埋戻しを実施した。 また、工事実施中の水質調査や、底質・底生生物調査等の環境調査を実施した。		取組を継続する。		関東地方整備局港湾空港部
6	NPOや企業、漁業者等による藻場等の造成の推進	NPOや企業、漁業者等による藻場等を造成する際の支援等を行う。	(第2期計画から記載)	横浜港金沢区白帆地区	公共水域を開放し取組に参加する企業を募集し、藻場の再生を行った。(平成25年度)		横浜港金沢区白帆地区	取組む(一財)セブンイレブン記念財団、(株)高千穂により、市民団体と連携したアマモ場造成に関する活動が展開された		取組を継続し、他地区への取組拡大を促進する。	6カ所以上で実施	関東地方整備局港湾空港部
										取組を継続する。		横浜市
7	臨海部企業が有する護岸の改修に対する技術的支援・助言	臨海部企業が所有する護岸を改修する際に、環境機能を付加させる技術的支援・助言を行う。	(第2期計画から記載)		生物共生型港湾構造物の整備に関する技術的ガイドラインを策定した。(予定)(平成25年度)			「生物共生型港湾構造物の整備・維持管理に関するガイドライン」を公表した。(平成26年7月)		生物共生型港湾構造物の整備促進策を検討する。	10社以上で実施	国土交通省港湾局
8	汚泥浚渫	底泥から溶出する汚濁物質の低減を図るため、底泥の除去を行う。	東京湾全体で、汚泥浚渫を約308,300m ³ 、覆砂を約10,700m ³ 、約2.1ha実施するとともに、モニタリングにより効果を検証(平成15年度～平成23年度)	東京港・江東地区・芝浦地区	汚泥浚渫を約32,000m ³ 実施した。(平成24年度) 汚泥浚渫を約47,000m ³ 、覆砂を約2,000m ³ 、約0.3ha実施した。(平成25年度)		東京港・江東地区・芝浦地区	汚泥浚渫を約15,000m ³ 実施した。(H27.1時点)	ダイオキシン類を含む土砂処分が発生し、浚渫土量が減少	両地区で、汚泥浚渫を約48,000m ³ 実施する。	汚泥の浚渫土量:30万m ³ 以上	東京都
9	浮遊ゴミ等の回収	海面を浮遊するゴミ・油について、海域環境整備船等にて回収を行う。	約20隻の清掃船等により東京湾全体で、浮遊ゴミを約74,867m ³ 、油を4m ³ 回収(平成15年度～23年度) 海洋短波レーダによる浮遊ゴミ回収システムを開発(平成17年度～20年度) 赤潮回収技術及び回収装置の開発を検討(平成15年度)	東京湾	浮遊ゴミを139.4m ³ 回収した。(平成24年度) 浮遊ゴミを125.4m ³ 回収した。(平成25年度)		東京湾	浮遊ゴミを約96.2m ³ 回収した。(H27.1時点)		取組を継続する。		関東地方整備局港湾空港部
				千葉港木更津港	清掃船により浮遊ゴミを2,344m ³ 回収した。(平成24年度) 清掃船により浮遊ゴミを3,301m ³ 回収した。(平成25年度)		千葉港木更津港	清掃船により浮遊ゴミを1,844m ³ 回収した。(平成26年度※H27.1時点)		取組を継続する。		千葉県
				川崎港	清掃船により浮遊ゴミを375.25m ³ 回収した。(平成24年度) 清掃船により浮遊ゴミを310.25m ³ 回収した。(平成25年度※H26.1まで)		川崎港	清掃船により浮遊ゴミを334.75m ³ 回収した。(平成25年度) 清掃船により浮遊ゴミを379.5m ³ 回収した。(平成26年度※H27.1時点)		取組を継続する。		川崎市
				東京港	清掃船により浮遊ゴミを2,071m ³ 回収した。(平成24年度) 清掃船により浮遊ゴミを1,604m ³ 回収した。(平成25年度※H26.1月まで)		東京港	清掃船により浮遊ゴミを2,172m ³ 回収した。(※H27.1月時点)		取組を継続する。		東京都
				横浜港	清掃船により浮遊ゴミを1,447m ³ 回収した。(平成24年度) 清掃船により浮遊ゴミを1,496m ³ 回収した。(平成25年度)		横浜港	清掃船により浮遊ゴミを1,496M/T回収した。(H25.4～H25.12)(220.87M/T H26.1～H26.3) 清掃船により浮遊ゴミを1,572.1M/T回収した。(H26.4～H27.1)		取組を継続する。		横浜市

海域

各プロジェクト一覧表

No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況						プロジェクトの目標	担当部署		
			第1期期末評価時点 (集計年度)	第1期期末評価時点以降～平成26年3月末時点			平成26年4月～平成27年3月末時点				平成27年度の実施予定	
				場所	実施状況	備考	場所	実施状況				備考
10	NPOや企業、漁業者等による海底ゴミの回収や海浜・干潟の清掃活動の推進	NPOや企業、漁業者等による海底ゴミの回収や海浜・干潟の清掃活動を推進する。	海底ゴミの回収や清掃活動をのべ41回開催、のべ11,822人が参加、44.3tのゴミを回収(平成15年度～23年度)				千葉港中央地区	7/28千葉ポートパーク内において清掃活動を実施、約140名が参加した。		取組を継続する。	清掃活動等のイベント回数 および市民参加延べ人数: 45回、1万3千人	関東地方整備局 港湾空港部
				横須賀港新港地区、浦賀地区及び久里浜地区	海面浮遊ゴミの清掃活動を6/15,7/15の2日間開催し、23人参加、2.2m3のゴミを回収した。(平成25年度)		横須賀港新港地区、浦賀地区及び久里浜地区	5/28,6/14,7/29,10/14海面浮遊ゴミの清掃活動をおこなった。また、航路調査船「うらなみ」が航路パトロール中に浮遊ゴミの発見、回収ゴミをべいくりに引き渡した。約0.1tの回収を実施した。		取組を継続する。		
				東京港お台場地区	鳥の島海浜清掃を開催し、99人参加、0.2tのゴミを回収した。(平成24年度) 鳥の島海浜清掃を開催し、67人参加、0.3tのゴミを回収した。(平成25年度)		東京港お台場地区	7/30鳥の島海浜清掃を開催し、57人参加、0.38tのゴミを回収した。		取組を継続する。		
				川崎港東扇島地区	東扇島グリーン大作戦を開催し、205人が参加し清掃活動を実施し、約4tゴミを回収(平成24年度) 東扇島グリーン大作戦を開催し、231人が参加し清掃活動を実施し、約6tのゴミを回収(平成25年度)		川崎港東扇島地区	10/8東扇島グリーン大作戦を開催し、270人が参加し清掃活動を実施し、約7tのゴミを回収した。		取組を継続する。		
				東京港・お台場海浜公園・城南島海浜公園	ボランティアによる海浜清掃を開催し、2,345人参加、2.3tのゴミを回収(平成24年度) ボランティアによる海浜清掃を開催し、1,636人参加、2.6tのゴミを回収(平成25年度)		東京港・お台場海浜公園・城南島海浜公園	ボランティアによる海浜清掃を開催し、1,858人参加、2.4tのゴミを回収した。		取組を継続する。		
				横須賀港走水地区	近隣の小中学生を中心としたボランティアにより「東京湾クリーンアップ大作戦はしりみず」を平成24年7月7日に開催し、約240人参加、260kgのゴミを回収(平成24年度) 近隣の小中学生を中心としたボランティアにより「東京湾クリーンアップ大作戦はしりみず」を平成25年7月13日に開催し、約264人参加、150kgのゴミを回収(平成25年度)		横須賀港走水地区	近隣の小中学生を中心としたボランティアにより「東京湾クリーンアップ大作戦はしりみず」を平成26年7月12日に開催を予定していたが、荒天により中止(平成26年度)		取組を継続する。		
				横浜港山下地区	平成24年10月21日に開催し、252人参加、1,020kgのゴミを回収(平成24年度) 平成25年10月20日に開催し、130人参加、1,200kgのゴミを回収(平成25年度)		横浜港山下地区	平成25年10月20日に開催し、130人参加、1,200kgのゴミを回収した(平成25年度) 平成26年10月19日に開催し、103人参加、1,500kgのゴミを回収した(平成26年度)		取組を継続する。		
11	貧酸素化緩和技術の検討	貧酸素化緩和の調査研究・技術開発を推進する。	千葉港千葉中央地区において、高濃度酸素水発生装置を用いた水・底質改善を実施(機械の製作・設置(平成21年度)、モニタリング実施(平成22～24年度))	東京湾	東京湾の流況・水質を再現し、貧酸素化緩和技術の評価等、将来環境予測を行うため東京湾全体のシミュレーションモデルの構築を進める。(平成25年度)		東京湾	東京湾の流況・水質を再現し、貧酸素化緩和技術の評価等、将来環境予測を行うため東京湾全体のシミュレーションモデルを構築した。	-	-	関東地方整備局 港湾空港部	
12	ブルーカーボンの調査研究・技術開発の推進	海洋(沿岸域)における炭素固定(ブルーカーボン)の調査研究・技術開発・活用方策検討を推進する。	横浜ブルーカーボンに関する検討委員会やシンポジウム、啓発イベントを開催(平成22年～)。八景島シーパラダイスで、ブルーカーボンに関する実証実験を実施(平成23年～24年)	横浜港	横浜ブルーカーボン事業によるカーボン・オフセット制度の導入を目指し、社会実験計画を立案した。シンポジウムや啓発イベントを開催予定。		横浜港	ブルーカーボン等を活用した独自のカーボン・オフセットを社会実験として実施。横浜シーサイドドライブスロン開催によるCO2排出量を、漁協・横浜八景島が行ったワカメの地産地消等の取組によるCO2排出削減でオフセット。	カーボン・オフセットによるクレジット代金シリーズ横浜大会も加え、カーボン・オフセットの規模を拡大して実施する。	27年度は世界トライアスロンシリーズ横浜大会も加え、カーボン・オフセットの規模を拡大して実施する。	-	横浜市
			ブルーカーボンに関する定量評価の確立に向けた調査研究を実施(平成24年～)		ブルカーボンに関する定量評価の確立に向けた調査研究を実施した。		ブルカーボンに関する定量評価の確立に向け、CO2吸収効果の計測手法に関する調査研究を実施した。		ブルカーボンによる気候変動緩和機能、減災機能の定量評価手法の確立に向け、現地調査、室内実験、評価手法等の検討を実施する。	-	国土交通省港湾局	
13	生態系サービス(海の健康度)の定量化手法の開発	沿岸域の環境の価値を定量的に評価する手法の開発	(第2期計画から記載)					東京湾の造成干潟、人工海浜、自然干潟に対して、海洋健全度指数の計算法および既存データの整理を実施。また、関係者へのヒアリング、現場でのアンケート調査を実施した。		H26の結果から、東京湾の実際の造成干潟、人工海浜、自然干潟に対して計算を行い、計算法を改良。その結果を踏まえて、定量化手法を提案する。	-	国土交通省国土技術政策総合研究所
14	自然エネルギー等の活用検討	風力や波力等の再生可能エネルギー、また海藻等のバイオマスエネルギー等の活用検討を行う。	風力等自然エネルギーの導入及び利用について検討を実施(平成23年度)		有識者等・関係者による委員会を開催し、港湾エリアへの洋上風力発電の設置許可手続を港湾管理者が円滑に進めるために必要な技術ガイドラインの検討を開始した。			有識者等・関係者による委員会を開催し、港湾エリアへの洋上風力発電の導入について、港湾管理者が検討及び審査を行う際の技術的な判断基準となるガイドライン(案)をとりまとめた。(3.27公表予定)	洋上風力発電の導入に対応した港湾区域の管理・利用調整方策を検討する。	-	国土交通省港湾局 国土交通省関東地方整備局港湾空港部	
15	漁業・漁場を取り巻く環境整備の検討	東京湾の江戸前の魚介類が豊富に存在するための環境整備を検討する。	(第2期計画から記載)							-	-	

各プロジェクト一覧表

No	プロジェクト名	プロジェクトの概要	プロジェクトの実施状況							プロジェクトの目標	担当部局	
			第1期期末評価時点 (集計年度)	第1期期末評価時点以降～平成26年3月末時点			平成26年4月～平成27年3月末時点					平成27年度の実施予定
				場所	実施状況	備考	場所	実施状況	備考			
16	環境教育・体験活動等の推進	東京湾の自然環境を活かした環境教育・体験活動等を行う。	(第2期計画から記載)	横浜港白帆地区	東京湾各地において、マリンレジャー普及を図るため、UMI協議会参加団体がボート試乗体験や釣り体験等のイベントを開催、出展した。(計10件)	UMI協議会:マリンレジャー関連団体により構成される協議会であり、国土交通省海事局と連携して活動を実施。	横浜港白帆地区	東京湾各地において、マリンレジャー普及を図るため、UMI協議会参加団体がボート試乗体験や釣り体験等のイベントを開催、出展した。(計11件)	UMI協議会:マリンレジャー関連団体により構成される協議会であり、国土交通省海事局と連携して活動を実施。	取組を継続する。	達成量	国土交通省海事局
				川崎港東扇島地区	東扇島公園内の干潟の活用について検討を実施した。(平成25年度)		川崎港東扇島地区	人工海浜(かわさきの浜)を開放(首都圏臨海防災センター)。NPOはその水面を利用し、川崎の海の水産生物の調査、学校単位に1月～2月末にかけて小学生の海苔付体験教室、東扇島東公園での海苔、ワカメの養殖などを実施。		取組を継続する。		関東地方整備局港湾空港部
				横須賀港	7/20、7/21「Save the Beach in 横須賀」(横須賀市うみかぜ公園)にてゴミ回収活動状況をブース展示した。また、活動状況を事務所HPに掲載した。(平成25年度)		横須賀港	7月19日(土)観音崎クリーンアップ大作戦に参加し、横須賀南ライオンズクラブと共同して清掃活動を行った。また、活動状況を事務所HPに掲載した。		取組を継続する。		
				横浜港京浜地区	生物共生型護岸を活用して大学等が環境調査・自然体験活動を実施した。(平成23～25年度)		横浜港京浜地区	9/23潮彩の渚において、江戸前アサリ「わくわく調査」を実施した。親子21人が参加。活動状況を事務所HPに掲載した。		取組を継続する。		
				東京港 ・お台場海浜公園 ・海の森	お台場海浜公園では、地元の小学校を対象に、のりづくり体験学習イベントを、小学校PTA、NPO、地元区と協働して3回開催した。海の森では、一般市民、企業を対象に植樹イベントを2回開催した。(平成25年度)		東京港 ・お台場海浜公園 ・海の森	お台場海浜公園では、地元の小学校を対象に、のりづくり体験学習イベントを、小学校PTA、NPO、地元区と協働して3回開催した。海の森では、一般市民、企業を対象に植樹イベントを2回開催した。		取組を継続する。		東京都
17	東京湾再生官民連携フォーラムによる活動	東京湾再生官民連携フォーラム(仮称)による活動を行う。	(第2期計画から記載)	東京湾	東京湾再生官民連携フォーラムが設立された。設立にあわせて東京湾大感謝祭が開催され、一般の方々へ東京湾への関心を喚起するとともに、「指標検討」「モニタリング推進」「生き物生息場づくり」「江戸前ブランド育成」「東京湾大感謝祭」の5つのPTが始動した。		東京湾	7/31に「東京湾パブリックアクセスPT」「東京湾での海水浴復活の方策検討PT」が新たに設置された。10/25に総会が開催され「東京湾再生のための行動計画(第二期)の新たな指標に関する提案」が再生推進会議に政策提案されることが決定した。(11/17に提案)10/25、26に横浜赤レンガ倉庫で第2回東京湾大感謝祭が開催され、2日間で約82,000人の来場があり、多くの人へ東京湾再生への関心を喚起した。	取組を継続する。10/25、10/26に横浜赤レンガ倉庫で第3回東京湾大感謝祭を開催する。	-	共通	